



グローバル・フォーラム会報

THE GLOBAL FORUM OF JAPAN BULLETIN, Summer 2007 Vol.8, No.3

「日米対話」開催さる —21世紀における日米同盟—

グローバル・フォーラムは、アメリカ外交政策全国委員会 (NCAFP) との共催により、6月1日、東京で「日米対話：21世紀における日米同盟」を開催し、拉致問題や北朝鮮の核実験に対する対応等をめぐり日米間に考え方のギャップが出て来ているのではないかと、21世紀を迎えて日米同盟関係はこのままでよいのか、との観点から、専門家間での徹底的な議論を行った。

日米同盟への主要な挑戦

午前の部「日米同盟への主要な挑戦：北朝鮮その他の要因」では、4人の基調報告者から、「日本は拉致問題だけでなく、核の廃棄のようなより大きな問題にも目を向けてほしい。日本がPKOなどの国際貢献を強化するとともに、各国とのパイの関係を改善するよう期待する。それがマルチの枠組みも改善するからだ」(スカラピーノ教授)、「日本は『グローバルな普通の大国』へと脱皮しようとしている。日本はすでに『グローバル』な大国だが、『普通』の中味はこれから決まる。日本にとっては10-20年後の米国がどのような米国かということが問題だ」(猪口孝教授)、「日米中の三国関係は、冷戦期のバランス・オブ・パワーからポスト冷戦期のバランス・オブ・インフレンスに転換した。経済などのソフト・パワーの重要性が高まったためである。そのため勢力均衡のみならず、勢力調和が重要だ。今後日米関係は、中国との協調を目標にせねばならない」(プラット元大使)、「北朝鮮の核と拉致問題、中国の軍備増強、米国の政策の曖昧さなどが、日本を複雑なジレン

マの下に置いている。米国は日本の核武装を阻止する意図のようだが、このままでは日本は核保有国に取り囲まれる可能性がある。そのとき日米同盟は信頼できるのか。日米同盟は、現在大きな転換期にさしかかっている」(田久保忠衛教授)との基調報告がなされた。

引き続き行われた自由討論では、「日本は核保有すべきか否かではなく、いかに近隣諸国との関係を改善するかを考えるべきだ。米国が望む日本は政治的、経済的に強い日本だが、軍事的に強い日本ではない」(米国側)、「米国は北朝鮮に対し、なんらの譲歩も得ることなくずるずると妥協してきた。イランに対しても同様だ。いつまで続けるのか。ブッシュ外交8年の結論は、北の核保有か」(日本側)等と、日米双方から活発な意見が述べられた。

日米中三国関係の展望

午後の部「日米中三国関係と北東アジア安全保障の展望」では、「中国の関心は北(中ソ国境)から海(台湾)に転じつつあり、米軍再編はこれに対応して、グアム基地を強化しようとしている。6カ国協議の目的は北の非核化のはずだが、現実には北の核は残りそうだ。米国は、冷戦後の包括的な



活発に討議する参加者たち



握手するジョージ・シュワブ、伊藤憲一両議長

核戦略の見直しを進める必要がある」(森本敏教授)、「米国を中心とするハブ・アンド・スポークスの構造を代替する東アジア地域安全保障の構造は、まだ見えない。アジア中心か、太平洋中心かを見定める必要がある。米国の立場からすると、台湾も参加しているAPEC中心が望ましい。北朝鮮問題については、日米中3国関係の正常化が先決だが、米国の究極の目標は北の核廃棄だ」(ドノヴァン駐日公使)、「中国の成長が地域の安定に寄与するのかどうか日本としては気になるが、あまり日中間の『価値観の違い』を強調するのは生産的でない。中国との協力関係を推進すべきだろう。日米同盟は今後ともアジアの安全保障と繁栄の重要な公共財となる。そのためには絶えず戦略的な対話を心がける必要がある」(竹内行夫前外務次官)、「台湾は現在『台湾化』しており、この現状維持が最善の選択肢だ。米国も中台双方に対し二重の抑止と二重の保障を推し進めている」(ザゴリア教授)との基調報告がなされた。

その後の自由討論では「米国としては東アジアで生まれつつある地域的組織の性格や向かう方向を見定めているところだ。米国がそのような組織に直接参画せずに、地域構築に関与する可能性もある」(米国側)、「東アジア共同体論議の中に、豪州やNZを呼び込むのは、人権や民主主義のためだが、米国はそこをこのところを理解すべきだ」(日本側)等の率直な意見が述べられた。

「外交円卓懇談会」開催さる 秋圭昊・韓国東アジア地域協力大使を迎えて

4月17日、当フォーラムは、来日した秋圭昊韓国東アジア地域協力大使をゲストに迎えて、第29回「外交円卓懇談会」を開催した。

秋大使からは、①米韓FTA締結について、「韓国産業界には、先進国の日本と急成長する中国に挟まれている状況を危惧する声が上がっていた。米韓FTA締結は、そのような韓国経済をグローバル・スタンダードに近づけるという戦略的判断によるものだが、安全保障面でも韓米関係を大切にするとする姿勢を示すことになった」、②東アジア地域統合について、「共同体形成への意志の弱さ、文化の多様性、米国の取扱い方、モダ



秋大使(右)を迎えて

リティなどの問題がある。最初はできるところから始め、次第に他分野に拡張していく漸進主義が現実的だ。日中韓の歴史認識問題では、日本はもっと政治的なリーダーシップを発揮すべきだ」などの発言があり、そのあと日本側出席者との間で率直なやりとりがあった。

村上正泰常任世話人代行に

本『会報』前号にて既報のとおり、さる2月14日開催の第17回世話人会にて甲斐世話人が常任世話人に選任されたが、同常



任世話人は、その後一身上の都合により5月14日付けで辞任したため、伊藤憲一執行世話人の指名により村上正泰世話人(写真)が今後当面は常任世話人の職務を代行することになった。

■新規入会メンバーの紹介

(3-5月分、入会順)

【国会議員メンバー】

大串 博志 衆議院議員(民主党)
北神 圭朗 衆議院議員(民主党)
内藤 正光 参議院議員(民主党)
鈴木 馨祐 衆議院議員(自由民主党)
山中 燁子 衆議院議員(自由民主党)
長島 昭久 衆議院議員(民主党)
山口 壯 衆議院議員(民主党)

【有識者メンバー】

平林 博 日本国際フォーラム参与
須藤 繁 国際開発センターエネルギー環境室長兼主任研究員

「GFJ Commentary」開設

当フォーラム(GFJ)の英語版ホームページ(<http://www.gfj.jp/eng.htm>)に2月21日から「GFJ Commentary」欄が開設された。日本の声を世界に届けるためのGFJの新たな試みで、6月3日には、“The Meaning of the G8 and the Unusual Character of the Russian State” by MURAKAMI Masayasu が掲載されている。

謝 辞

当フォーラムの諸活動の主要な財政的基盤は、その経済人世話人および経済人メンバーの所属する企業の納入する賛助会費にあります。

現時点における賛助会費納入企業は、下記の12社20口です。ここに特記して謝意を表します。

[経済人世話人所属企業] [5口]

トヨタ自動車 キックマン

[経済人メンバー所属企業] [1口]

住友電気工業 鹿島建設

新日本製鐵 東京電力 旭硝子

三菱東京UFJ銀行 日本電信電話

富士ゼロックス ビル代行

日本郵船

(入会日付順)

12-5月の政策掲示板「議論百出」

当フォーラム政策掲示板「議論百出」は、皆様のご支援とご参加を得て、4月をもって開設1周年を迎えたが、この間に寄せられた投稿は295件を越えた。昨年12月から今年5月の投稿のうち、主なものは、下記の通り。<http://www.gfj.jp>にアクセスしてほしい。

5/17「日本中東新時代」(山内昌之)

5/11「確固としたロシア戦略の必要性」(田島高志)

4/23「求められる中国政治体制の動向分析」(木暮正義)

4/23「日中エネルギー協力案件の推進に期待する」(須藤繁)

3/23「海外大学における日本研究の支援について」(上田勇)

2/18「北朝鮮問題は時間を稼げないと思ひ知るべし」(佐島直子)

12/14「注目すべきASEAN憲章修正の動き」(小笠原高雪)

フォーラム活動日誌(3-6月)

3月14日来日したMarkus Tidtenドイツ国際政治安全保障研究所主任研究員来訪(伊藤憲一執行世話人)

3月27日『メルマガ・グローバル・フォーラム』(4月号) 配信

4月20日来日したHadi Soesastroインドネシア戦略国際問題研究所所長と「日・ASEAN対話」協議(村上正泰世話人他4名)

4月26日第29回外交円卓懇談会(秋圭昊韓国東アジア地域協力大使氏他7名)

4月26日Selim Sermet Atacanli駐日トルコ大使往訪、「日黒海地域対話」協議(村上世話人他4名)

4月26日『メルマガ・グローバル・フォーラム』(5月号) 配信

5月9日Joseph Caron駐日カナダ大使と会食、懇談(伊藤執行世話人他)

5月18日Tan Chin Tiong駐日シンガポール大使と会食、懇談(伊藤執行世話人他)

5月25日『メルマガ・グローバル・フォーラム』(6月号) 配信

6月1日日米対話「21世紀における日米同盟」本会議I、II(G. Schwabアメリカ外交政策全国委員会理事長他19名)



グローバル・フォーラム会報
2007年夏季号
(第8巻 第3号 通巻第31号)

発行日 2007年7月1日
発行人 伊藤 憲一
編集人 柳田 真梨子

発行所 グローバル・フォーラム
〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-12-1301
[Tel] 03-3584-2193 [E-mail] info@gfj.jp
[Fax] 03-3505-4406 [URL] http://www.gfj.jp/